

機関番号：34320

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20320019

研究課題名（和文） 「普通の人々の哲学」と「知識人の思想」の葛藤をめぐる戦後思想史 鶴見和子文庫を開く

研究課題名（英文） Conflicts and collaborations between common people's "philosophy" and the intellectuals' "thinking": new perspectives on the Japanese postwar history of thoughts through Kazuko Tsurumi's personal library

研究代表者

鶴飼 正樹（UKAI MASAKI）

京都文教大学・人間学部文化人類学科・准教授

研究者番号：70192507

研究成果の概要（和文）：

本研究では、比較社会学者・鶴見和子（1918～2006）の多方面にわたる業績を、「普通の人々の哲学」と「知識人の思想」の葛藤と交流という枠組みから読解することによって、戦後思想史の中に位置づけ、さらに日本の戦後思想史をポスト占領状況という視界から再考した。各研究者は、京都文教大学図書館に「鶴見和子文庫」として所蔵されている鶴見和子の旧蔵書、草稿・フィールドノート・研究メモ・書簡などの未公開資料を渉猟し、鶴見の業績の現代的意義について考察を深めた。また、「鶴見和子文庫」の未公開資料を整理・分類・データベース化を進め、将来的な公開に向けての準備を整えた。

研究成果の概要（英文）：

By reading interdisciplinary works of Kazuko Tsurumi (1918-2006), a Japanese comparative sociologist, focusing on the conflicts and collaborations between common people's "philosophy" and the intellectuals' "thinking," this research project has tried to situate Tsurumi in the postwar history of Japanese thoughts, and reconsider the Japanese postwar history of thoughts itself from the perspective of "post-occupational" political situation. Each researcher has studied the collection of books, manuscripts, field notes, research memos and personal letters archived as "Kazuko Tsurumi's Personal Library" at the library of Kyoto Bunkyo University, and tried to revive the actuality of Tsurumi's works. Furthermore, the unpublished materials in the Tsurumi's Personal Library are organized and we made a digital database of these materials, which will be accessible for publics in the near future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
2009年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2010年度	2,800,000	840,000	3,640,000
年度			
年度			
総計	10,300,000	3,090,000	13,390,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：(1) 比較思想史 (2) 戦後思想史 (3) ネットワーク (4) データベース

思想運動の一翼を担った思想の科学研究所の創設メンバーであり、内外に広く知られた比較社会学者であった。京都文教大学は、鶴見の旧蔵書約 4,500 冊ならびに未公開の草稿・フィールドノート・研究メモ・書簡などの資料約 6,000 点の寄贈を受け、同大学図書館の「鶴見和子文庫」として所蔵している。京都文教大学の付置研究機関である人間学研究所では、鶴見の没後、「鶴見和子文庫」の活用をめざし、2006 年に全 4 回の連続シンポジウム、2007 年度には生活綴方関係者を招いてのシンポジウムを実施するとともに、共同研究「個人の思想形成と蔵書の研究 京都文教大学図書館所蔵の鶴見和子文庫を手がかりとして」をおこなってきた。本研究はその延長線上に位置づけられるものである。

2. 研究の目的

本研究は、鶴見和子の多方面にわたる業績を、「普通の人々の哲学」と「知識人の思想」の葛藤と交流という枠組みから読解することによって、戦後思想史の中に位置づけ、さらに日本の戦後思想史をポスト占領状況という視界から再考する試みである。

鶴見の業績は『コレクション・鶴見和子曼陀羅』巻 9 巻（藤原書店、1999 年）に集大成されている。しかし、これはすでに刊行されたテキストに基づいたものであり、鶴見和子の全体像に迫るためには、思想形成のプロセスを跡づける必要がある。本研究ではそのため、「鶴見和子文庫」の未公開資料を中心に、研究を進める。

こうした研究のためにも、「鶴見和子文庫」の未公開資料を整理・分類・データベース化を進め、将来的な公開に向けての準備を整える。

3. 研究の方法

上記の目的のため、思想史的研究と資料整理という二つの側面から、アプローチする。

(1) 思想史的研究

鶴見和子の多方面にわたる業績を読み解くために、分野横断的な研究者を組織し、共同で研究する。各研究者は、鶴見和子文庫所蔵の旧蔵書、未公開資料を、自分の問題意識にしたがって渉猟・解読・分析するとともに、様々な機会に鶴見と行動をともした関係者から聞き取り調査を実施する。定期的に研究会を開催し、研究者各自の研究結果を報告することで、問題を共有し、総合的な視点から鶴見和子の思想の全体像に迫る。

(2) 資料整理

草稿・フィールドノート・研究メモ・書簡など、鶴見和子文庫の未公開資料を分類・整理、データ化する。まず、個々の資料を台帳

に登録し、保存のための処理を施す。貴重資料や劣化の著しい資料は、スキャンする。その後、台帳データをパソコンに入力し、データベース化する。あわせて、将来的な公開に向けたガイドラインを作成する。

4. 研究成果

(1) 鶴見和子文庫未公開資料からの発見

鶴見和子文庫未公開資料を整理する中で、以下のような貴重な資料が発見された。

生活綴方文集『私の家』

鶴見和子が 50 年にわたってその活動に深く関わることになる、東亜紡織株式会社泊工場（三重県四日市市）のサークル「生活を記録する会」の出発点となった、ガリ版刷り・ホッチキス製本の文集（1952 年 6 月に印刷・製本）である。「生活を記録する会」との出会いののち、鶴見は東京で「生活をつづる会」を始め、「自分をふくむ集団」という思想を形成するにいたった。2002 年に日本図書センターより復刻刊行された、『紡績女子工員生活記録集』にも収録されていない、貴重な出版物であり、その一部を京都文教大学人間学研究所紀要『人間学研究』に復刻した。

鶴見和子の講演記録テープ

1957 年 8 月 5 日、高知市公民館での、生活記録運動をテーマにした講演を録音したものの。生活記録運動と「自分をふくむ集団」という思想について、一般市民に向けてわかりやすく話しており、鶴見和子の思想形成のプロセスを跡づけるための貴重な資料と考えられる。本研究では、研究費を使用しすでにこの講演記録のテープ起こしをすませ済みであり、校訂をほどこしたうえで、活字として出版する計画である。

(2) 思想史的研究

研究代表者、研究分担者、連携研究者、研究協力者は、鶴見和子文庫の資料をもとに、以下のような研究に従事し、研究会で報告を行った。

鶴飼正樹（研究代表者）：「鶴見和子文庫未公開資料から発見された生活綴方文集『私の家』」

鶴見和子文庫未公開資料の中から発見された生活綴方文集『私の家』（先述）を紹介するとともに、鶴見和子の書き込みを分析することで、生活記録運動と鶴見和子の関わりについて、新たな光を当てた。

高石浩一「河合隼雄と鶴見和子 マンダラと曼荼羅」

南方熊楠の思想を「南方曼荼羅」ととらえ、自身の内発的発展論に取り込もうとした鶴

見和子と、ユング心理学をもとに日本文化を論じ、独自のマンダラ思想を構想した臨床心理学者・河合隼雄とを対比させ、とくに、鶴見和子の「萃点」と河合隼雄の「中空構造」の関連を考察した。

松田凡（研究分担者）：「鶴見和子とカール・ポランニー：自然と地域の概念をめぐって」

鶴見和子と経済人類学者・カール・ポランニーの接点を、ポランニーの日本への紹介者であり、鶴見の内発的発展論にも強い影響を与えた玉野井芳郎にもとめ、「自然」と「地域」の概念を再考した。

鶴見太郎（研究分担者）：「民俗学者の足跡を辿る作業 柳田国男から南方熊楠へ」

鶴見和子文庫に所蔵されている『定本柳田国男集』への書き込みと、生前の鶴見から聞いた話をもとに、鶴見和子が柳田国男から南方熊楠へと、どのような道筋で導かれていったのかを、考察した。

西川祐子（連携研究者）：「1950年代を考えるために 『紡績女子工員生活記録集』と『東京南部サークル雑誌集成』の『ならべ読み』」

2009年に日本図書センターより『東京南部サークル雑誌集成』が出版された。これは、1950年代に東京南部の労働者サークルの間で出版されていた雑誌を編集復刻したものである。これを同時代の「生活を記録する会」による『紡績女子工員生活記録集』と「ならべ読み」することによって浮かび上がる、産業の違い、ジェンダーの差、農村地帯との関係性、表現のジャンルと文体の違い、キーパーソンの特徴について考察した。

遠藤保子（連携研究者）：「鶴見和子の舞踊観 鶴見和子文庫を開く」

鶴見和子文庫未公開資料を中心に、日本舞踊の名取でもあった鶴見和子の舞踊観を明らかにするとともに、内発的発展論と関連づけ、西欧的近代思想とは異なる形で、心身から社会、そして地球環境を包括して理解する思想の形成の可能性を模索した。

松居竜五（連携研究者）：「鶴見和子の南方熊楠研究 関連資料紹介」

鶴見和子文庫未公開資料うちの南方熊楠関連資料から発見された、（ ）『南方熊楠 地球思考の比較学』執筆の周辺資料、（ ）紀行文「熊野行」資料、（ ）若き日のパルバックとの出会い、について、紹介した。

溝口佳代（研究協力者）：「鶴見和子の蔵書 デューイ『コモン・フェイス』の分析」

ジョン・デューイは、鶴見和子の思想の出

発点であり、晩年にいたっても重要な準拠点でもあり続けた。そのデューイの『コモン・フェイス』（鶴見和子文庫所蔵）への書き込みと、晩年の岩波市民セミナーでの講演をもとに、内発的発展論という思想形成の過程にアプローチした。

猿山隆子（研究協力者）：「鶴見和子の学習組織論：『生活をつづる会』における話し合いの記録ノートから」

鶴見和子文庫未公開資料の中で発見された記録ノートをもとに、生活記録サークル「生活をつづる会」の、学習組織としての活動における、鶴見和子の役割について検討した。生活をつづる会は、学校教育とは異なる学習の形態を持つ集団であり、鶴見和子はそこで、指導者としてではなく、「自ら学ぶ」ことを援助する者としての役割を果たそうとしていたことが明らかにされた。

アダム・ブロンソン（研究協力者）：「鶴見和子と戦後生活綴方運動における『自己改造』と『教養』」

鶴見和子の、戦後の生活綴方・生活記録運動につながる思想的な水脈を、竹内好を通じた中国革命、毛沢東思想の影響の系譜として位置づけられる「自己革命」と、河合栄治郎を代表とする、マルクス主義に対立する人格主義／教養主義／近代主義の系譜として位置づけられる「教養」という、二つの流れの中に置いて考察した。

以上のような研究により、鶴見和子文庫の未公開資料の持つ価値が再認識されるとともに、鶴見和子の思想の現代的意義も再確認された。とりわけ、毎回の研究会で議論のテーマとなったのが、知識人である鶴見和子が、「普通の人たち」と結び結ぼうとした関係性のあり方で、本研究がテーマとした「普通の人の哲学」と「知識人の思想」の葛藤と交流という枠組みの重要性、それを戦後60年という現在の時点から見た意義を、分野横断的な研究者組織によって読解するという本研究の目的を達することができたと考えられる。

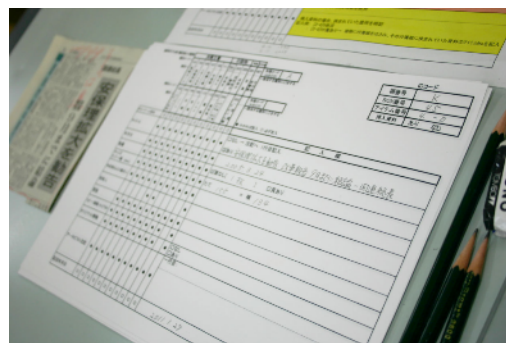
(3) 資料整理

鶴見和子文庫未公開資料の整理に当たっては、鶴見和子の研究対象であり、また資料の整理という点でも先進事例である、南方熊楠記念館、南方熊楠顕彰館（2008年11月1日、2日）、鶴見和子とも縁の深い、鶴見良行、宇井純両氏の資料を所蔵する埼玉大学教育研究センター（2009年2月20日）を見学し、資料整理、データベース化の実態について、関係者から話をうかがった。

京都文教大学図書館では、鶴見和子文庫未

公開資料を整理・分類し、データベース化するための基礎作業を進めた。具体的には、個々の資料の台帳登録作業、および保存用封筒への入れ替え作業、貴重資料のスキャニング作業、台帳データのパソコンへの入力作業である。

台帳データは、種別、形態、タイトル、年月日、数量、サイズ、作成者および差出人、受取人、言語、コピーかどうか、オリジナル情報の有無、アーキビスト注記の項目よりなっている。



< 台帳データの帳票 >



< 整理作業前の未公開資料書棚 >



< 整理後の未公開資料書棚 >

ID	種別	形態	タイトル	年月日	数量	サイズ	作成者	差出人	受取人	言語	コピー	オリジナル	注記
1984101	書	1冊	1984	10	1冊	1984	鶴見和子	鶴見和子	鶴見和子	日本語	○	○	1984年10月10日撮影
1984102	書	1冊	1984	10	1冊	1984	鶴見和子	鶴見和子	鶴見和子	日本語	○	○	1984年10月10日撮影
1984103	書	1冊	1984	10	1冊	1984	鶴見和子	鶴見和子	鶴見和子	日本語	○	○	1984年10月10日撮影
1984104	書	1冊	1984	10	1冊	1984	鶴見和子	鶴見和子	鶴見和子	日本語	○	○	1984年10月10日撮影
1984105	書	1冊	1984	10	1冊	1984	鶴見和子	鶴見和子	鶴見和子	日本語	○	○	1984年10月10日撮影
1984106	書	1冊	1984	10	1冊	1984	鶴見和子	鶴見和子	鶴見和子	日本語	○	○	1984年10月10日撮影
1984107	書	1冊	1984	10	1冊	1984	鶴見和子	鶴見和子	鶴見和子	日本語	○	○	1984年10月10日撮影
1984108	書	1冊	1984	10	1冊	1984	鶴見和子	鶴見和子	鶴見和子	日本語	○	○	1984年10月10日撮影
1984109	書	1冊	1984	10	1冊	1984	鶴見和子	鶴見和子	鶴見和子	日本語	○	○	1984年10月10日撮影
1984110	書	1冊	1984	10	1冊	1984	鶴見和子	鶴見和子	鶴見和子	日本語	○	○	1984年10月10日撮影

< データベース入力画面 >

現時点では、鶴見和子が倒れる 1995 年以前から保持していた「東京資料」(通称)に関してはデータベース化を終了し、1995 年以降に収集していた「宇治資料」の整理・分類が、全体の 3 分の 2 程度まで終了している。残りの資料については、大学の研究費等で対応し、なるべく早く終了させる予定である。

データベース化が完了していないため、現在ではまだウェブでの資料公開はできないが、公開に関するガイドラインを作成し、京都文教大学図書館を通じて閲覧申し込みがあった資料に関しては、閲覧できる状態にまでは、資料整理ができています。今後は、ガイドラインにしたがって、共同研究者各自が、公開に値すると判断した鶴見和子文庫未公開資料のリスト化を終えるとともに、ウェブ・データベースを作成し、部分的にであれ公開できるようにする。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

鶴飼正樹「鶴見和子文庫未公開資料から発見された生活綴方文集『私の家』」『人間学研究』9、査読無、2008、pp1-12

鶴見太郎「周辺から読む柳田国男」『民俗学研究所紀要』34、査読無、2010、pp1-29

西川祐子「シンポジウム「東京南部の青春」出席報告「ならべ読み」の可能性について」、『人間学研究』10、査読有、2010、pp57-66

西川祐子「生活綴り方の書き手と同時代読者 児童雑誌というメディアをとおして」、『社会文学』33、査読無、2010、pp.154-158

高石浩一「河合隼雄と鶴見和子 1992年から1994年の関わり」、『人間学研究』11、査読有、2010、印刷中

猿山隆子「鶴見和子の生活記録運動における学習組織の展開：「生活をつづる会」における話し合いの記録ノートの分析から」、『京都大学大学院教育学研究科紀要』57、査読有、2011、pp.559-572

〔学会発表〕(計4件)

遠藤保子「鶴見和子の舞踊観 鶴見和子文庫を開く」第60回舞踊学会大会、2008年12月6日、お茶の水女子大学

遠藤保子「鶴見和子の舞踊観2 鶴見和子文庫を開く」第61回舞踊学会大会、2009年12月5日、筑波大学

猿山隆子「鶴見和子の生活記録運動における学習組織の展開」日本社会教育学会、2010年9月19日、神戸大学

遠藤保子「鶴見和子の舞踊観 1995年以降の鶴見和子文庫を中心にして」第62回舞踊学会大会、2010年12月5日、日本大学芸術学部

〔図書〕(計1件)

西川祐子・杉本星子編、日本図書センター、『共同研究 戦後の生活記録にまなぶ 鶴見和子文庫との対話・未来への通信』、2009、282

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鶴飼 正樹 (UKAI MASAKI)

京都文教大学・人間学部文化人類学科・准教授

研究者番号：70192507

(2) 研究分担者

杉本 星子 (SUGIMOTO SEIKO)

京都文教大学・人間学部文化人類学科・教授

研究者番号：70298743

高石 浩一 (TAKAISHI KOICHI)

京都文教大学・臨床心理学部臨床心理学科・教授

研究者番号：40226733

松田 凡 (MATSUDA HIROSHI)

京都文教大学・人間学部文化人類学科・教授

研究者番号：90288689

佐藤 知久 (SATO TOMOHISA)

京都文教大学・人間学部文化人類学科・准教授

研究者番号：70388213

鶴見 太郎 (TSURUMI TARO)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：80288696

(3) 連携研究者

松居 竜五 (MATSUI RYUGO)

龍谷大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：40238952

遠藤 保子 (ENDO YASUKO)

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号：10185168

中谷 いずみ (NAKAYA IZUMI)

奈良教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10366544

西川 祐子 (NISHIKAWA YUKO)

京都文教大学・人間学研究所・客員研究員

研究者番号：50183538

(4) 研究協力者

溝口 佳代 (MIZOGUCHI KAYO)

龍谷大学大学院・国際文化学研究科・研究生

猿山 隆子 (SARUYAMA TAKAKO)

京都大学大学院・教育学研究科・博士後期課程

奈倉 京子 (NAGURA KYOKO)

京都文教大学・人間学部・教務補佐員

アダム・ブロンソン (ADAM BRONSON)

コロンビア大学大学院生